

月刊島民

中之島

Vol.85 2015 8/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ナカノシマ大学

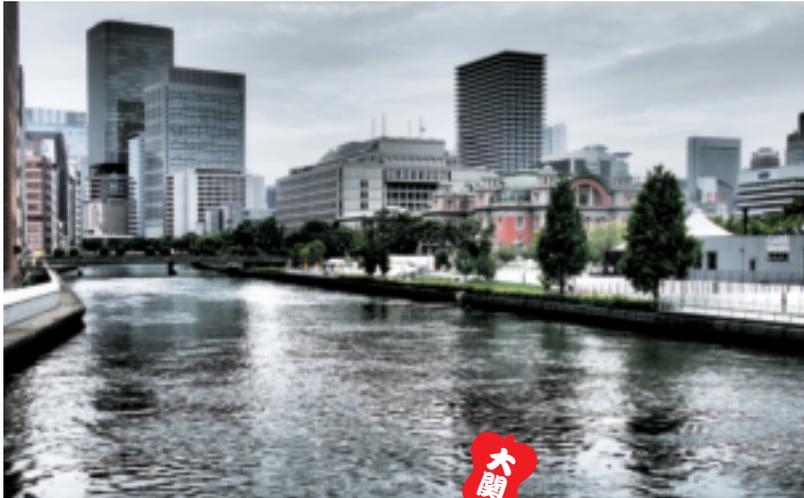
「残暑を乗り切る!
昆布レシピ」

喜多條清光

申し込み受付中!

2015

今回は、これまで誌面でお伝えてきた中之島の魅力を、本誌プレスが新たな視点で(勝手に)ランキング。誰もが知る定番名所から、意外なスポットが飛び出す番狂わせまで、遊び心を持ってご覧ください。



難波橋

南詰、北浜方面に近い位置から見る西側の風景がベスト。大阪市中央公会堂の赤煉瓦の色がひととき目立ち、後の大阪市役所、竣工したばかりの新ダイビルのレストランと好対照な風景。左には中之島フェスティバルタワー。低層部に貼られたベージュ色のレンガブロックがシックで美しい。



田蓑橋

堂島川にかかる橋の途中に丸く出っ張った展望用のステップが3つ。いちばん南詰寄りのステップから見た光景。ダイビル本館、中之島ダイビル、中之島三井ビルディング、フェスティバルタワーと高層建築が並ぶ。



堂島大橋

河口に近い中之島の西端部、堂島川にかかる堂島大橋。大きなリベットがむき出しになっている鉄鋼材のアーチが特徴だ。その鋼材の間から見える上流方面の風景は、さまざまな建築物がバラエティに富み都会的。

シマを見るならこの橋にきて

中之島ガーデンブリッジ

堂島川にかかる歩行者専用の橋は、平成に完成した新入り。毎年秋に恒例の「橋洗い」が行われ、界隈の企業や団体、北新地の飲食業者ら約200人ほどがデッキブラシでゴシゴシと磨くことにより、清潔さが保たれている。



難波橋

好きな橋として挙がることが多い、今年100周年を迎えた通称「ライオン橋」。他の橋より装飾が目立つ優美さに加え、欄干や親柱に飾られた市章「みおつくし」が、わがまちの橋として愛着が湧くのもかもしれない。



銚流橋・水晶橋

いずれも大阪市中央公会堂の北側にかかる、昭和4年(1929)に完成した「双子」。天神祭の神事の舞台だった銚流橋、河川浄化が目的の可動堰だった水晶橋は、中央公会堂を入れた景観が考慮され、どちらも本来の目的から装飾を改められた者同士。無骨な機械部分を隠したり、洋式を取り入れたり、その裏の苦勞が評価されて今回の番付ではベスト1に。



橋番付は、橋そのものの美しさにも注目して作るべし。ただ、単純に装飾の美しさや年季の違いを競うのではない。本誌プレスとしては、現在の橋がある背景や、隠れたエピソードを交えて評価していきたい。そうすれば、読者諸君が橋を渡るとき、また違った楽しみ方が期待出来るはずだ。

橋の美、秘訣はシマにあり

中之島名所番付

癒しのカド丸建築

「カド丸建築」という専門用語はない。けれども即座にお分かりになるだろう。中之島周辺には角を丸くカーブさせたカド丸建築がたくさんある。そして角地に面したカド丸建築を見ると、なんだか緊張から解放されるようになごむのだ。余談になるが、そのカド丸建築の命名者は、建築家の高岡伸一さん。2014年に上梓した『大阪名所図解』（140B）では、その街のランドマークとしての大阪のカド丸建築がずらり。



大関

ダイビル本館

もともとが渡邊節の設計で、大正14年(1925)竣工の大阪を代表する近代建築。2013年に建て替えられた際、低層階の外観を復元。石の彫刻や外壁に貼られたスクラッチ煉瓦は、手作業で外され再利用された。豪華客船の船先を思わせる優雅なデザイン。



奈路道程画伯も一押し建築!



北新地のタクシー乗り場

東の銀座と並ぶ、西の北新地は船大工通でこんなブチ・カド丸建築を発見。レトロというかモダンというか、戦後、高度経済成長期の夢とスピードを感じさせる、思いきり半円状に切り取られた見事なカド丸具合だ。

大阪証券取引所

カド丸というよりは、巨大な円柱をガラス張りの高層ビルに埋め込んでいる。金融街・北浜の象徴ながら、この丸みは働く島民たちに安心感を与える。重厚な石造りのレトロ建築と、現代風のオフィスビルの融合が中之島らしい。

中之島フェスティバルタワー

13階のスカイロビーは、平日のみ出入り可能。屋外のウッドデッキからは、このタワーのキモである巨大なメガトラス構造の柱を間近に、橋がいくつも伸びる中之島の西側や南側を臨むことができる。



中之島センタービル

川と橋の交差点のようになっているのがよくわかる、中之島センタービル(NCB)31階にあるNCBスカイルームからの最西端の眺め。最近では中之島GATEに中之島漁港がオープンし、リバービューにも変化が出た?



大関

OMMビル

高さ78mの大規模複合ビルとして開業した昭和44年(1969)から変わらず、市内を一望できる屋上庭園が名物。10:00AM~4:00PMまで一般開放している大阪城方面は、ビル中のテナントにとっては休憩所、観光客には展望台として大人気だ。中之島方面の景色は設置されたライブカメラを通し、ホームページで閲覧できる仕組みが。

高層オフィスビルに働くためのビル、という考えは古い。今は屋上やテラスなど、ビルの一部をオープンスペースとして開放し、中之島のロケーションごとビルがあるエリアを知って楽しんでもらう試みが盛ん。そのビルで働いていない人でも気軽に出入りできる気遣いが、島民プレスにとってはたまらないポイント。

見下ろすためのビル

惚れる偉人たちの貢献

中之島界隈を歩くと、偉人たちの功績を讃えた石碑や本人の像をたくさん見かける。しかし、実際に彼らが何を残したかという点、知らない方も多いのではないかと。そこで、大阪の歴史に詳しい「平岡珈琲店」マスターの小川清さんに、偉人たちの貢献度について伺った。大阪・中之島における功績の現存度、現在に伝わる彼らの太っ腹度や人柄に至るまでが判断材料に。「中之島の恩人ナンバーワン」は、いったい誰なのか？



行司は小川 清さん
[平岡珈琲店]
マスター

奇しくも關一と大橋房太郎は昭和10年(1935)に亡くなっていて、大阪市中央公会堂で市民葬が行われたのはこの二人だけ。政策に対しては当初非難も多かったようですが、彼ら自身の堅実な生活や地道な活動も慕われる一因だったのでは。

五代友厚

自らが立ち上げた大阪証券取引所(P3)前に堂々と立つ銅像その人。造幣局や大阪商船、大阪商工会議所に堂島の製藍所など数々の発起人を務め、薩摩藩出身ながら大阪を「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほどに経済発展させた。靑公園近くや日本銀行大阪支店の場所に居を構えた島民だったというのもポイント高し。



關一

社会政策や都市問題の研究者から一転、大阪市助役に。御堂筋の拡幅や地下鉄御堂筋線の建設、大阪市中央卸売市場の開設など、第七代大阪市長として「大大阪時代」を支えた。その像は大阪市東洋陶磁美術館の西側にたたく。



大橋房太郎

意外と知られていない鶴見区放出出身の政治家。明治18年(1885)の淀川大洪水をきっかけに、淀川の付け替え工事に生涯を捧げた「治水翁」。現在の水都大阪は、この人なくしてはありえなかっただろう。



小川さんが上梓した彼の自伝は必読!



作家に愛された中之島

中之島は、文学作品にも多く登場する街でもある。歴史の厚みがあるだけに、新旧ジャンルを問わず、題材に選ばれやすいようだ。多いだけに、ランク付けが難しい。本誌でも特集した織田作之助や高村薫の作品も外せないような。そこで、大阪府立中之島図書館の司書の方に協力をお願い。大御所の有名すぎる作品から、近年登場した作品、超番外編のものまで、バランスよくランクインする結果となった。



行司はKさん
大阪府立
中之島図書館
覆面司書

1位は当館にも貴重な初版本がある、「大御所」近松門左衛門の『曾根崎心中』。『心中天網島』にも、中之島界隈のなじみ深い地名がしばしば登場します。でもやっぱり中之島のイメージは、個人的には久坂部羊さんですね(笑)

近松門左衛門『曾根崎心中』

江戸時代前期の浄瑠璃・歌舞伎作家として活躍した、近松門左衛門の名作。舞台になった当時の曾根崎はひっそりしていたが、堂島や北新地は、華やかな文化が育まれた土地だ。晩年に京都から大坂へ移り住んだ近松も、近辺を口ケハンしてみたのかもしれない。「原文から美しい七五調を味わうのがおすすめ」と推薦者のKさん。



2011年には、直木賞作家の角田光代がリメイクしたことで話題に。

久坂部羊『ブラック・ジャックは遠かった』

本誌人気連載「中之島ふらふら青春記」がまとめられた一冊が、めでたく2位に。中之島に大阪大学医学部キャンパスがあった頃の何気ないワンシーンに、自らの青春を重ね合わせて読み進めた読者も多いのでは。

福田紀一

『霧に沈む戦艦未来の城』

Kさんいわく「超番外」。大御所作品を押さえた番狂わせのトンデモSF。一言で表すと西日本が独立し、中之島が軍艦になるのだが、中之島公園に戦艦「最上」のマストがあったことを考えると、無茶な発想でもない?



ダイビル本館エントランス

再オープンにあたり、かつての外観を再現したダイビル本館（P3）。実は、解体前のビルの名物だったレトロな私設郵便箱もほぼ同じ場所に復活！ メールシュータイプではないが、記念ではなく現役なのが嬉しいところ。



日本銀行 大阪支店前

御堂筋沿いの行き交う人々を見守ってきた、昭和46年（1971）生まれの黄金ポスト。かつて同じ場所には大阪郵便役所があり、集められた郵便が東京に輸送される新式郵便発祥の地でもあった。その由緒は、同地にある石碑に明らか。近代郵便制度の夜明けから100周年を記念して作られた、当時の生き証人でもある。



建築全体でなく、あえて視野を狭めてポストに注目してみる。拳がったのは従来の赤ポストとは一味違う、「この場所」にしかないポストたちだ。そこには、バックに控える建築や土地への思い、歴史への理解や意匠が込められていたりする。見過ごしそうなポイントにこそ、島民的視点が発揮されるのだ。

歴史はポストを見よ

天満天神繁昌亭前

2006年、天満天神繁昌亭がオープンした際に設置。赤ポストが登場する前に活躍していた、明治期の黒い屋根付きポストをイメージ。小道具ではなく、毎日きちんと回収される現役。初投函は桂文枝さんが務めた。



少彦名神社&御霊神社 御神楠



道修町・少彦名神社と淡路町・御霊神社の御神木がランクイン。前者（写真左）は葉の町を見守り続ける、樹齢300年の巨木。後者（写真右）は空襲時の大火傷から再生し、その生命力にあやかりたい参拝者が絶えない。



オフィス街・中之島に根を張る木々は、ちょっと異質な存在だ。ひしめくビル群の中で癒しをもたらす、パワースポットともいえる。開発が進む時代でも、人々が敬意を払って残しているのは理由がある。ポストに続き、島民的視点が問われる番付かもしれない？

木を見て街を見ない

京阪電車中之島線 中之島駅

2008年に開通した中之島線の各駅には、各エリアのイメージが盛り込まれている。沿線の源であるこの駅には木材を使用。不燃性とデザイン性を両立させた美しい駅は、中之島のシンボルだ。同い年の本誌も親近感。



蛸の松

田蓑橋北詰のたもとにある。中之島に蔵屋敷があった頃、当時の広島藩主だった福島正則が植えたとき、その枝ぶりが泳ぐ蛸にそっくりだったことから名が付いた。かつては田蓑橋南詰のやや西にあり、錦絵の題材としても扱われる名所となったが、明治時代後半に枯死。しかし護岸美化工事を機に2004年に再現され、新たな名所としてよみがえった。

梅雨も明けた真夏の8月。ビジネス街を出入りするクルーズ船が知りたい、シマの避暑地といえど、暑さを和らげるスポットが多い。水辺を利用したテラスや、乗り物を利用してみるのも一つの手。オフィスビルの開放ゾーンや美術館を訪れるのもアリだ。

街のクールスポット

中之島剣先公園

島民としては外せない、マイナスイオンに満ちた憩いの場。バラ園を越えて東に進むと、阪神高速や天神橋下が絶好の日除けスポットに。さらに東、中之島公園の先端は、天然のクールスポットだ。大木の木陰や川により近い場所はいつも涼しげ。昼寝に、ランチに島民の穴場になっている。近頃は、ヨガ会場としても人気を博す。



中之島ウエスト・打ち水プロジェクト

中之島に拠点を置く企業を中心に、「ヒートアイランド」中之島を冷やす真夏の風物詩。シマを代表するビル前で一斉に実施される打ち水は、見応えも清涼感も十分。大川で汲み取った水を活用するの中之島らしい。



町人の粋な遊び「見立番付」。

錦橋の北詰で見る事ができる、天保元年頃（1829）に作られた「浪花橋々繁栄見立相撲」。東の大関は天神橋、西の大関は難波橋、なんと行司は四ツ橋。大相撲の力士になぞらえ、大坂に架かる橋205ヶ所を通行量の多い順に並べたものだ。

このように、相撲の番付表に見立ててあらゆるものをランク付けする情報紙「見立番付」は、江戸時代後期の18世紀末から町人の間で人気を博した。特に「將軍のお膝元」江戸と「天下の台所」大坂で大流行。両者とも情報が集まりやすく、流通の仕組みが整っていたことが共通点だ。大都市では良くも悪くも膨大な情報に行動が左右されるため、人々はひとつの判断材料として番付表を重宝していたようだ。

大坂人は「番付」がお好き。

芝居や大相撲から派生し、様々なテーマでランク付けしていく遊びの発端は、江戸時代までさかのぼることができる。

大阪府立中之島図書館の所蔵資料から、大坂町人の「遊び心」をご紹介します。

取材文／江口由夏 協力／大阪府立中之島図書館 写真／李宗和

相違点もある。パロディらしく「遊び心」が必要な見立番付は、世に出回った大半が大坂発のもの。その中身も、横浜開港や幕末の動乱もネタにする江戸の番付に比べ、大坂は「天下の台所」の名にふさわしく地方の特産品や長者の番付がもてはやされた。いずれも世の中の動きや流行を映した番付が作られたわけだが、「何を面白がるか」で江戸と大坂の焦点が異なるというのは、現代の笑いに通じてはこないか。

◎番付のヒミツ

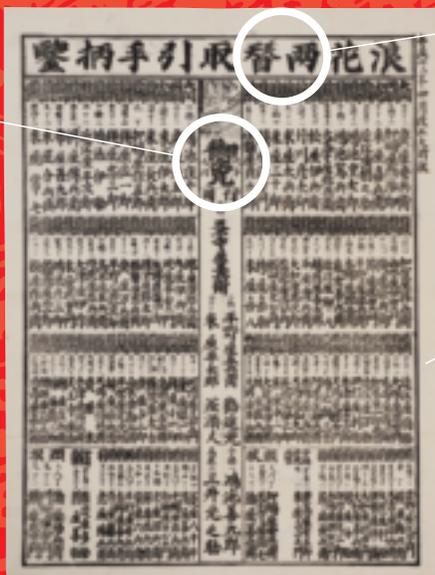
ヒミツ① 作者

番付表は作者不明、記載があっても偽名の場合が多い。ひとつの判断基準を元に格付けした番付表は、世に出てからの「うちが載っていない」「この順位はおかしい」などのクレームを恐れ、問い合わせを曖昧にするのがお決まり。先に欄外で「次第不同御免」（順列が違っていただけめんなさい）と記載し、内容に自信がない言い訳や漏れがあった場合のお詫びを書いて、責任逃れの策を講じるのも珍しくなかった。

浪花両替取手柄鑑

（安政4年・1857）

蔵屋敷が集中した大坂・中之島では、各藩の年貢米や産物を換金する両替商が発達。繁盛順に屋号を並べた中には、大坂屈指の豪商・鴻池や加島屋の名が。



ヒミツ② テーマ

相撲や歌舞伎に始まった番付遊びの題材は、神社仏閣に温泉、惣菜から園芸植物にまで及んだ。しかし検閲を恐れてか、政治に絡めた番付表はめったにない。江戸では人々の関心が集まるため、横浜開港や幕末の内乱を取り上げたものが作られたが、番付して遊ぶという娯楽自体が次第に廃れていく。幕末の混乱で「遊び心」どころではなかったのだろうか。

ヒミツ③ 流通

木版印刷の普及により、一枚摺の番付表は江戸と大坂を中心にどんどん流行していく。ある程度バラエティに富んだ頃、大坂では色々な番付表をまとめた総集編も出た。地方都市ではご当地番付表も誕生。京都でも作られたが、気軽な読み物が歓迎される大坂の本屋と違い、教養書を多く扱う本屋では置きにくかったという。

生活密着型ランキング

中之島図書館の司書の方にピックアップしていただき、上方の風俗が反映されている番付4つをご紹介します。見立番付のテーマは、やはり何でもあり？

この医者にかかりたい



当時流行町請医師見立 (天保11年・1840)

薬の町・道修町があった北船場を中心に、大坂には医者が多かった。そこで作られたのが「安心して診察してくれる医者ランキング」。番付には医者住所や専門分野も記載。医療技術を不安がる患者側からは、より正確な医者情報を大量に求めるリクエストが尽きず、毎年改正されるたびに掲載人数も増え、サイズも拡張せざるを得なかった。

集まれ！特産品



諸國産物大数望 (天保11年・1840)

旅の流行や名産品への憧れから、江戸や大坂では特産品番付がよく作られた。東の大関にはダシに欠かせない「陸奥の松前昆布」、東の大関には堂島米市場で盛んに取引されたであろう「西国の白米」。蔵屋敷が立ち並んでいた中之島ならではの、大坂の食文化を表した番付だ。ゆえに、大坂の食材番付は、江戸では役に立たなかったという。

目が痛い敵割



あほうとかしの番付 (刊年不明)

19世紀以降の大坂では、教訓を込めた「仮名草子」風の読ませる番付が増えていく。また、左右ではなく上下に対比する表も新しく登場。「あほうの方＝大水に川わたりするうらたへもの」「かしの方＝うつくしいかを見世においてあきないさす人」など、上方らしいいけず炸裂。「人の振り見て我が振り直せ」という教訓なのかもしれない。

らへら番付したん？



天保八西年浪花施行末代鑑 (天保12年・1841)

天保の大飢饉の際、どの大坂町人がどれだけの私財を投げ打って人々に施したかを表す。まさに江戸時代版「惚れてまうやる」番付。当時はこの番付に載るか載らないかで悪評が立ち、「末代」と名が付くように商家の未来が左右されたというから恐ろしい。載らなかった長者に対しては「今度は貢献しなさいよ」という戒めも込められていた。

古地図ウォーカーこと、作家の本渡章さん



「近未来中之島三景」を作る。

ナカノシマ大学の古地図講座シリーズでおなじみの本渡さん。
街の歩き方や、着眼点を教えてくれる島民の先生的存在だ。

今回注目したのは、中之島の旧さと新しさが交錯した近未来ビュー。カメラ片手に、改めて中之島を巡っていただいた。



昭和橋オブジェ

「川口居留地跡のほど近く、美しいアーチを描く名橋が一瞬、鋼鉄の歯を持つオブジェに変貌。昭和橋は夕刻の空に駆け昇るドラゴンだったのか。見る角度、立ち位置で風景ははすりと一転します」



水上の巨大倉庫と巨大市場

「水上にぬっと浮かんで見える、中之島西端の住友倉庫と中央卸売市場という二大巨大建築物。曇天なら、不穏な香りがしてさらに近未来世紀的。端建蔵橋か船津橋の上から、ぼんやり眺めるのがベスト」



シマを貫通する高速道路

「三井住友銀行本店の横で腹を見せうねる阪神高速。空中に建つ造形の存在感は、ぐぐっと迫るものがある。高速道路は中之島の景観を損ねているのでなく、新しい景観を生み出しています」

「浮雲三景」を作る。

本渡さんは、クラウド・ウォッチャーを自認する雲好き。「絵巻物や浮世絵風景画でも雲はつきもの。建築物を撮ると、近代建築の意匠を軸に語られがちですが、雲と一緒に建築物ものびのびして見えるかもしれません。コトは屋根や壁、塔の先端といった建築物の一部を入れ、人の気配を感じさせること。

メルクリウスとミネルバ、2神と遊ぶ雲



「大阪市中央公会堂の屋根に鎮座した神々の像を入れて。天界のような神々しさです。私にとって中之島名所といえば、この中央公会堂。

島民的には定番ですが、撮る場所を上にもずらすだけで、また違った味わいに。同じ絵は二度と撮れない一期一会も奥深い」



剣先の樹の梢越しの雲

「中之島公園の東端、剣先公園で撮影したもの。浮世絵風景画の現代版のような趣に」



錦橋北詰から仰ぐ大同生命ビルと雲

「ゴゴゴゴ…という音がしそうな構図。あえて灰色雲が折り重なる、曇りの日に撮影」



元・おけいはん医学生こと、大阪大学教授の仲野徹さん



「思いを馳せる石碑番付」を作る。

かつて、大阪大学医学部は大阪市立科学館の場所にあった。仲野先生はそのキャンパスに通っていた一人。千林にある自宅から京阪電車を使い、土佐堀川沿いを歩いて通っていたあの頃。

庭同然だった中之島界限には、印象に残る石碑がいくつもあった。今も変わらず残されている、中之島らしい史跡といえば？



淀屋の碑

「中之島線ができるまで、おけいはんにとっての中之島最寄り駅は淀屋橋。淀屋橋駅から阪大医学部へと、せせと歩いてたものです。初代、淀屋常安にちなんで、昔は中之島4丁目あたりを常安町いきましたけど、いまやその名を残すのは橋の名前だけ。遠い目…」



福澤諭吉誕生地記念碑

「福澤諭吉は、この場所にあった中津藩屋敷で生まれました。阪大病院からぼたるまちへと町の姿はすっかり変わったけど、この石碑だけは同じ場所にひっそりとたえずんです。同じく、遠い目」



逆櫓の松跡碑

「文楽や歌舞伎でおなじみの『ひらかな盛衰記』。源義経と梶原景時が、船を後ろへも漕ぎ進められる逆櫓をつけるかどうかを松の下で議論した、という故事にちなんでいます。史実かどうかかわからず、もっと遠い目」

日常のあらゆるものが番付のテーマになることは、すでにお伝えしたとおり。特別に、本誌でお世話になっている先生お二人にもオリジナルの中之島番付をお願いしてみた。どんな「中之島らしさ」が飛び出す？

島民サポーター、「番付」をたしなむ。

昆布の「旨み」を
どう活かす?



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト



◎今月の授業

【昆布】

夏にも嬉しい昆布レシピいろいろ。
昆布のエキスタっぷりの「昆布水」に、
ライムやレモンを加えた「フレイバー昆
布水」は、熱中症対策にもぴったりとの
こと。その他、ピクルスや牛肉の昆布
ダマに应用したりと使い方は幅広い。



2015年9月講座

「残暑を乗り切る! 昆布レシピ」

講師／喜多條清光 ([天満大阪昆布] 代表取締役)

「昆布水」の生みの親がお届けする、
暑い大阪の夏を乗り切るための昆布の使い方講座。
直伝レシピ&試飲もあり!

大阪天満宮のお膝元で昆布商を商う
[天満大阪昆布]の喜多條清光さんは、
NHKで取り上げられるなどして大ヒットし
た「昆布水」の生みの親。2013年にナカ
ノシマ大学に登場していただいた際には、



大阪と昆布のつなが
りの歴史や昆布の持
つ栄養を活かす方法
を伝授してもらい、
大好評だった。

そんな喜多條さん
から1通のメールが。

「実は昆布は夏にも良いんです」。暑い
夏はだしをとるのも億劫になりがちで、あ
まり夏に料理をするというイメージがない。
ところが、夏にこそ摂取したい栄養素も
豊富に含まれており、昆布や昆布水の上
手な使い方を考案中なのだとか。

今回のナカノシマ大学では、喜多條さ
んが開発した大阪の厳しい残暑を乗り切
るための夏の昆布レシピをご紹介します。試食
で実際に味わいながら、生活や食卓に取り
入れたい昆布の話をつっぷり教えてい
ただこう。



家に帰ってすぐ実践できる
お土産付き!

今回の講座の参加者には、天満大阪昆布の
大ヒット商品「昆布革命」(2袋)に加え、昆布バ
ウターのサンプル、昆布水を使ったレシピが掲
載されたミニブックのセットをプレゼント。

募集要項	<p>「残暑を乗り切る! 昆布レシピ」</p> <p>日時／2015年9月10日(木) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)</p> <p>会場／愛日会館</p> <p>受講料／2,200円(お土産セット付き)</p> <p>定員／100名</p> <p>主催／ナカノシマ大学事務局</p> <p>協力／関西・大阪21世紀協会</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、FAX、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。</p> <p>〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学9月講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付後、9月18日前後より受講票を発送します。 ※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。</p>
------	---	---

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第十七回 高島幸次

大阪人は「おもしろいやつ」と「けつたいなやつ」に二分される。それ以外は「大阪市民」ではあっても、「大阪人」とはいわない。また、このような物言いに異論をはさむ読者も「大阪人」ではない。

当然ながら、上方落語には両者の大阪人が登場する。もちろん、そのどちらにも属さない真面目人間も登場するが、笑いの量で言う、「おもしろいやつ」と「けつたいなやつ」の会話こそが爆笑の源泉となる。

落語「稽古屋」は、宇治名物「ほたる踊り」を得意芸とする喜六が主人公。裸の全身を墨汁で真っ黒に塗り、赤い手拭で頬かぶりし、尻に火の点いた蠟燭を挟んで蜜に扮し、暗闇で踊りながら、尻で蠟燭の火を消すという重文級の珍芸だ。

落語では、下痢気味だった喜六が尻ではなく（汚いので省略）……となるが、この珍芸を実際に試した友人によると、尻が出る前に蠟燭が落ちて、なかなかうまくいかないらしい。得意げに踊る喜六も、それを実験した友人も「おもしろいやつ」に属する。落語『らくだ』には、遺体を文楽

人形のように操る「看々踊り」が出てくる。「看々踊り」は中国伝来の「唐人踊り」に由来するもので、江戸後期から明治期に流行った。落語では、葬儀費用を稼ぐために、その遺体を担いで近所を廻るのだが、こんなことを思いついた熊五郎は「けつたいなやつ」の代表だ。

この両者の違いは、自身の言動の面白さを自覚しているか否かにある。「おもしろいやつ」が、他人から「おもしろい」と思われることを意識している（期待している）のに対して、「けつたいなやつ」は、自分が他人から「けつたい」だと見られていることに気づいていない（認めたくない）傾向がある。

「おもしろいやつ」と「けつたいなやつ」。

「笑わせるやつ」と「笑われるやつ」と言い換えてもいいかも知れない。

8月天神寄席のゲストは日本舞踊家の山村若静紀さん。舞台であのへらへら踊りを披露してくるの知らん。

たかしまこうじ
大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

思わず踊り出したくなる8月寄席。

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。8月席のお題は「日本舞踊」。今回の演目は、いつもの上方落語に加え、踊りに三味線に、なんとも華やかなので、「期待を」。お題に引っかけ、登場する囃家さんの踊りも披露される。

鼎談ゲストには日本舞踊家の山村若静紀さんも披露される。異分野とはいえ、上方芸能同士の意外な共通点が判明するかも。

●8月のお題は「日本舞踊」

8月25日(火)

「舞い踊り語り落ちる」

落語「林家染雀「軽業」

桂三象「お忘れ物承り所」

内海英華「おんな道楽」

桂吉坊「浮かれの屑より」

寄席の踊り四題、桂よね吉「七段目」

鼎談「オチのある舞踊話」

山村若静紀「日本舞踊家」

高島幸次「大阪大学招聘教授」

桂春之輔

対談イベント「おうぎの会」を主宰する山村若静紀さんは、落語の奥義にも興味津々。



イラスト/フジワタモコ

ファンの多い桂吉坊さん。披露される「浮かれの屑より」は音楽を用いた賑やかなネタだ。

ナカノシマ大学で前売り券を買いうとお得!

「天神寄席の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じくウエブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日/8月25日(火)
開場/6:30PM(開場6:00PM)/受付開始5:45PM)

受講料/1800円(通常…前売2000円/当日2500円)
支払い方法/当日、現地にて精算

※予定枚数に達し次第、販売終了します。

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP.9を参照してください。
●問い合わせ ☎06-4799-1340(平日10:00AM~7:00PM)

ナカノシマニア

取材文／江口由夏(本誌)

8 月の中之島のキーワードは、盆踊りのようだ。

水都大阪のシンボリックワードとして位置付けられた今年、中之島の西端にある「中之島GATE」では、スケールも巨大な夏祭りが満を持して開催される。水辺の夏祭りらしく水上スポーツやクルーズ、海鮮ビアガーデンが楽しめる中、目玉メニューはなんと盆踊り。シマ愛を煽ってくれるような「水都音頭」なるものがこのイベントのために作られたという。

開催のタイミングとしては、これまで発信してきた水都の魅力を凝縮したようなイベント。そのメインとして、誰も彼も大歓迎な踊りの場を設けたのは、なんとなく海に開けた中之島らしい気がするし、「川と海からの玄関口」が会場になるのもしっくり来る。

一方、中之島に籍を置く企業が主催者となり、2013年に誕生した「中之島なつまつり」は今年で3回目。巨大な櫓を囲んで踊る盆踊りを共通言語に、普段なかなか接点がない企業と地域住民が交流できる場となっている。タワーマンションが増え、働く場所と住む場所の共存が進む中之島の新しい名物だ。今年は中之島バンクスを第2会場に、さらには大阪水上バスのワン

コインクルーズも企画されている。

「地域の方や沿線の方も含め、幅広い層の方が楽しんでおられるのを見ると、趣旨である『中之島西エリアにおける新たなコミュニティの創造』の実現や成功を実感します」と、実行委員に加わる京阪電鉄の古城寿菜さん。「継続を目指して、とんとんパワーアップしていきたいですね」。

踊り好きの中之島」を後押しする開催される「豊国踊り」。これはその昔、豊臣秀吉の七回忌に当たる慶長9年

(1604)に京都で行われた「豊国臨時祭礼」の目玉だった。盛大な祭礼のクライマックスとして、市民総勢1500名が組ごとに揃いの衣装と笠を身に付けて秀吉を祀った神社で踊り、御所内にまで踊り込んだ。この伝統的な舞踊が、豊臣家の本拠地である大阪で再現される。本誌でもたびたびお伝えしたとおり、中之島にもかつて豊国神社が存在し、大阪市役所拡張のために昭和36年(1961)に大阪城内に遷座した。そのような縁もあり、大坂の陣400年を記念した市民参加型イ

ベントとして、豊国踊りはびったりだったわけだ。再現に乗り出した大阪城天守閣館長の北川央さんは、「今回を第1回とし、大阪の夏の風物詩として定着してほしい」と話す。「当時にしろ、一般市民の参加も大歓迎しています。河内音頭風、よさこい風、阿波踊り風、サンバ風、ジャズダンス風：自由に基本型をアレンジしてもらい、『平成の豊国踊り』を創りあげたいと思います」。

「踊り」をキーワードに、真夏の中之島は去年よりも熱くなりそう。

中之島の夏が、盆踊りに染まりつつある。

水都大阪2015「水都村 ビッグ盆」

中之島漁港がオープンした「中之島GATE」に、この夏だけの「水都村」が出現。パドルボードやカヤックといった体験型プログラムや、海鮮ビアガーデンが満喫できる。メインイベントの盆踊りはクラゲモチーフの櫓を囲み、オリジナルの「水都音頭」で盛り上がること必至。

日時／8月15日(土)～16日(日)、21日(金)～23日(日) 12:00AM～8:00PM
会場／中之島GATE 入場無料
有料ゾーンあり・詳細は<http://daihakken.com/>



中之島なつまつり2015

「これが来たら夏も終わりやなあ」と、すっかり島民にも定着。メイン会場となる大阪国際会議場のピロティ部分には櫓が組まれ、河内家菊水丸さんが音頭をとる。中之島界隈の名店によるグルメ屋台も出店。

日時／8月28日(金)5:00PM～9:00PM頃
会場／大阪国際会議場1Fプラザ
入場無料・詳細は
<http://nakanoshima-natsumatsuri.jp>

大坂の陣400年プロジェクト「天守閣で夕涼み」

昨年からはまったプロジェクトの舞台として、大阪城天守閣では様々なイベントを年中開催。夏期は天守閣をバックに豊国踊りの無料観覧あり、戦国時代をモチーフにした縁日ありの2日間だ。期間中は天守閣も特別開館延長されるので、最上階からの夜景も期待できる。

日時／8月8日(土)～9日(日)
(「豊国踊り」お披露目は8日のみ7:00PM～8:00PM)
会場／大阪城天守閣前本丸広場
有料ゾーンあり・詳細は<http://www.osakacastle.net>

今年の水辺は一味違う。

手を振り合う季節。



以前このコラムで「都心の川の遊覧は、陸の人や行き会う船のお客さんたちと手を振り合えるのも楽しい」と書いた。水辺に涼を求める人も増える夏。船のお客さんからは「パレード気分やなあ」という感想も出たりする。ちなみに、船と岸との円滑なコミュニケーションには身ぶり&声出しがポイント。手を振っているのに気づいてもらえず通過、というサミシイ場面を回避するためにも、恥じらいを捨てて大きめに！

船上で見ていると、こういうのが得意なのは子どもたち。あの建物が何年築とか、勤務先のビルが見えるとか、そういうことにあんまり興味がないので、人影を見かけると片っぱしから「おーい！」と声をかけて楽しんでいたりして微笑ましい。

水都大阪のシンボリヤー。

今年、2015年は水都大阪の「シンボリヤ



ー」とされている。ちょうど400年前は大坂冬の陣、夏の陣で豊臣時代が終わり、大阪にとって一大転機となった年。道頓堀が開削されたのも400年前だった。中之島公園は大きな催し物が数々計画されていて、夏から秋の良い季節の間、カフェやバーベキューサイトなどが水辺のあちこちで展開される。市役所や公会堂周辺はもちろん、新しいところでは中之島の西端を臨む「中之島GATE」で行われる盆踊りや大正区「リバーレッジ」なども盛り上がりを見せている。水上でも大小の新しい船がデビューしているし、「水都大阪2015」オープニングイベントでは、久々のアート船「ラッキードラゴン」も登場する。

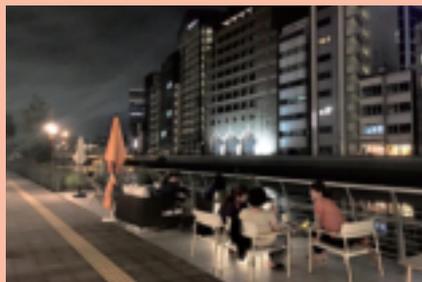
船長をやっていると「手を振られるならこの辺」というのが以前は限られていたのだが、今はそこらじゅうの水辺や船から手を振られるので、気が抜けなくなってきた。堀が街のあちこちに伸びていった近世の大坂のように、水辺を楽しめる場所は点から面に広がっていきこうとしている。

「色々あってオモロイで」が好き。

「先日パリを旅行してきたばかり」というお客さんを、道頓堀から中之島までご案内した。最初のころ「パリはこんな、大阪はこんな」と比べて

いたのが、東横堀川の水門を通るころには「これはパリにはなかったなあ」、中之島の夜景を見るころには「パリよりエエで」という声になった。私はパリの水辺を体験していないが、要は大坂の水辺の風景の多彩さを再確認していただけなのだと思う。

大阪城にグリコ看板に中央公会堂…見どころは数あれど、世界クラスの絶対的な定番！となるような強力な場所が大阪にはない。これは残念ながら認めざるを得ないと思う。水都大阪の宣伝戦略としたら不利だろうけれど、この「色々あってオモロイで」という



整理しきれない雰囲気は、大阪人自身が好きな雰囲気だと思ふし、そうやって街の人に気に入られている感じのほうが、この先400年の水都大阪が楽しくなる、というものだろう。



中野弘巳(御舟かもめ船長)

なかのひろみ「定員10名の小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。今夏も終夜運航の特別企画「lookabout!オオサカボート」を開催。真夜中の港湾風景や早朝のビル街は、目の覚める姿！
<http://www.otune-camome.net>

トウミン月報

2015年8月1日発行



中央公会堂の地下に 新レストラン誕生!

この6月、大阪市中央公会堂の地下1階に新しいレストラン「中之島ソーシャルイト アウエイク」がオープンしたと聞き、さっそく潜入。重要文化財である中央公会堂には、平日の昼間から同窓会らしき年配の団体や、親子連れ、

カップルにオフィス街らしいスーツ姿など様々な層でにぎわっている。
内観は中央公会堂の特徴である赤レンガの壁を活かし、前レストランの空間を再利用。店内奥にあるゆったりとしたソファ一席に着き、もちろん注文は、「中央公会堂といえは」のランチタイム限定オムライスだ。

新レストランが打ち出したのは、これまでのものとは異なるネオ・オムライス。ところどころの卵がチキンライスにかぶり、さらに繊維がほろほろになるまで煮込んだ牛肉入りデミグラスソースがたっぷり。かなりのボリュームに思えるが、北浜散策ついでに寄ったというお隣の婦人は「私みたいな年寄りでも、胃にもたれずべろり。今日は友人も連れてきました。レストランスタッフいわく、オムライス

設置のリクエストはオープン前から多かったとのこと。島民に愛される中央公会堂のレストランは、それだけ期待が大きいといつことだろう。(江口由夏・本誌)

中之島ソーシャルイト アウエイク

(大阪市中央公会堂 地下1階)
料理監修の米村昌泰氏による本格フレンチはダイニングエリアで。バルエリアではタバス702円~として注文可能。クラブビール734円~と共に。ランチはオムライス1,500円と並び、好みの2皿を選ぶブリフィックスランチ1,500円~が人気。
☎06-6233-9660 11:30AM~11:00PM
※ランチは~LO3:00PM 第四火曜休



PLAY[IE: THE PLAY HAVE A HOUSE] (1972)
© PLAY



Hito Steyerl [Liquidity Inc.] (2014)
Image CC 4.0 Hito Steyerl
Courtesy of the Artist and Andrew Kreps Gallery, New York



Aki Sasamoto [Talking in Circles in Talking] (2015)
© Aki Sasamoto, Courtesy of Take Nirasawa, Tokyo
Photo by Kei Okano

「流れ」を題材にした作品が集まる、 堂島リバーフォーラムの美術展。

堂島リバーフォーラムでは2年に一度、国際的な美術展「ビエンナーレ」を開催している。アートと異分野を結びつけることで、新しいアートの誕生を予感させたり、社会の在り方に問題提起していくことが大きなテーマだ。また、

堂島川を臨む会場らしく、これまでの開催では「川」との関連性を意識したコンセプトを元に出展されてきた。
4回目を迎える「堂島リバービエンナーレ2015」のタイトルは「Take Me To The River」同時代性の潮流。今回も川の流れからインスピレ-

ションを受け、現代における時間の流れや、流動化する社会を取り上げた作品が集まった。その表現方法は様々で、

堂島リバー
ビエンナーレ2015
期間/〜8月30日(日)まで 無休
開館時間/11:00AM〜7:00PM
※入館は閉館の30分前まで
入場料/1,000円
問い合わせ☎06-6341-0115
(堂島リバーフォーラム)

写真や映画、オブジェといった自由な発信装置に触れることができる。参加アーティストの出身地は、イギリスにアメリカ、ドイツに日本など、実に国際色豊か。川や流れに対する解釈が、国籍や個人の主観によってどう異なるのかが興味深い。(江口由夏・本誌)

6月に開催されたナカノシマ大学の鉄道講座も大入り満員。大人気の黒田一樹さんが創元社で行っている



京阪電車中之島線のほか、京都で地下鉄

地下鉄がテーマのシリーズ講座「関西アンダーグラウンドの作法」の第2回目が開かれる。前回は大阪市営地下鉄の歴史をはじめ、昭和に京阪神で誕生した地下線特集した。今回はその平成編で、月刊島民の舞台である中之島を走る

との乗り入れを果たした京阪電車京津線、阪神電車なんば線なども話題に上る予定だ。
地下鉄は時代を映す鏡であるというのが黒田さんの持論。「1980年代以降の地下駅が、機能主義からアメニティ志向へとシフトしていく過程に迫

「時代を映す鏡」 黒田一樹さんの 地下鉄&地下線セミナー

創元社 鉄道セミナー
「関西アンダーグラウンドの作法
京阪神 地下鉄・地下線ガイド」
日時/2015年8月21日(金)
7:00PM〜8:30PM(開場6:30PM~)
会場/創元社本社 4階セミナールーム
受講料/2,000円
申し込み・問い合わせ
☎06-6231-9011

りたい」とのこと。ナカノシマ大学ファンはこちらも要注目だ。(大迫力・本誌)

誰でも気軽に飲めて、実は奥が深い。そんなビールの楽しみ方を、英国風スタイルのパブを通して感じさせてくれるのが「HUB」だ。ビールに対するこだわりはオリジナルのドラフトビールである「ハブエール」によく表れている。ビールは何と言っても鮮度が大切。店舗から注文があった当日に新潟県にあるブルワリーで樽詰めし、チルド配送して翌日には各店舗に届く。これによってフレッシュな香りやまろやかな味わいをそのまま味わうことができる。

美味しいビールのための、品質、技術、そして…。

[HUB] ●プリティッシュパブ



オーダー&会計はこちらで。元気なスタッフの笑顔が店の雰囲気を盛り上げる。

ユーブの洗浄はもちろんのこと、グラスを冷やす温度にも明確な規定がある。冷えすぎていると、きめ細やかでクリーミーな泡を付けられないからだ。この泡を楽しむとっておきの方法がある。ビールを飲んでみると、



HUBエールは季節によって味を変えている。今飲める春夏のものは、フルーティで女性にも飲みやすい味。秋冬はコクがあってしっかりした味わい。飲み比べてみよう。

ユーブの洗浄はもちろんのこと、グラスを冷やす温度にも明確な規定がある。冷えすぎていると、きめ細やかでクリーミーな泡を付けられないからだ。この泡を楽しむとっておきの方法がある。ビールを飲んでみると、

ユートの距離が近くなるよう心がけています」と、店長の深野真也さん。実際、週末の混雑している時間帯でも、店のあちこちでスタッフとお客さんがコミュニケーションしている様子が見られる。

「HUB」では、イギリスのパブと同じようにキヤッシュオンデリバリーのシステムになっている。注文する度にお金を支払うスタイルで、会計がわかりやすいだけでなく、自由なタイミングで店を出られる利点がある。1人でも、1杯だけでも気にすることは無い。好きな時に好きなように、ビールを味わえばいい。

グラスの内側に泡の跡が残る。これを「エンジェルリング」と呼び、上手に入れたらビールはこの跡がきちんと残り、グラスを傾けた回数だけリングが見られるのだそう。味や品質の追求と共にもう一つ大事にしているのが、店で働く従業員の働く姿だ。「どれだけ美味しいものを出しても、店の雰囲気がよくなければ楽しんでもらえません。笑顔で元氣よく、お客さん

祝祭へようこそ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供/株式会社 朝日ビルディング



HUB 中之島フェスティバルプラザ店

●中之島フェスティバルタワーB1F

オリジナルのHUBエールは1パイントで880円(上写真)、1/2グラス490円、3/4グラス700円。その他にドラフトビールは3種類、世界各国のクラフトビールや季節限定の銘柄も。パブと言えはのフィッシュアンドチップス(レギュラー630円/ハーフサイズ400円)はじめフードメニューも充実。朝から深夜まで通し営業のため、昼間などにはカフェ違いの女性客が多いというのもこの店ならではの。☎06-6233-8682 11:00AM~0:00AM(LO11:45PM)

大「島民」MAP 橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/梅田 蔦屋書店/紀伊國屋書店 梅田本店/グランフロント大阪店/本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/梅田ヒルトンプラザ店/天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/大阪梅田サテライト/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など] アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鯉料理 志津亭/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)/カセツ/喫茶カンターロ/喫茶SAWA/グランスイート中之島/黒門さかえ/コモカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/サメロディ/シアトルベストコーヒー新開電ビル店/しろろ亭/Giron's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブイレブ大阪証券取引所店/タビエスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャー/パストラル/花かっこ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/プレイハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店 柳ヶ堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/川口基督教教会 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリバー/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟がめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂/Books 呼文堂/水嶋書房 千住はもろ店/大阪狭山市立図書館/大阪市立難波市民学習センター/大阪大学企画広報・社会学連携事務室/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ/連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンボン/百練/奈良県立図書館報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルーエ(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 豪商、どうでしょう。

この秋から始まる朝ドラは、幕末の大坂屈指の豪商「加島屋」がモデル。ところで、「豪商」とは誰を指すのか? そしてその実態やメカニズムは?

●『月刊島民』vol.86は2015年9月1日発行です!

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
 編集・発行/月刊島民プレス
 若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
 松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
 Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
 制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
 デザイン/山崎慎太郎
 表紙イラスト/奈路道程
 印刷/佐川印刷株式会社



この湖では、
時間もゆっくり
流れます。

ミシガン(琵琶湖汽船)
中之島けい子



びわ湖大津館



ミシガン(琵琶湖汽船)



屋上アウトドア
バーベキュー 星
(琵琶湖ホテル)

おけいはん、びわ湖で夏旅

水平線と白い船が待つ湖辺リゾートへ、京阪電車で。



びわ湖をめぐる

チャレンジ!
おけいはん

おけいはんがびわ湖を周遊!

フォト日記やエリア紹介マップをweb上で公開しています。

詳しくは、京阪電車主要駅のチラシをご覧ください。

おトクな「大阪・京都・びわ湖「水の路」1dayチケット」発売中!

チャレンジおけいはん

検索

Facebook

@c.okeihan



日本の湖を、
たっぷり満喫!

京阪の
おけいはん。
人。